

<b>Title</b>	がん哲学外来実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2013 年度 聖学院大学総合研究所主催：臨床死生学研究講演会）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.2, 2013.12：38-40
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5030">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5030</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE



司会：窪寺俊之教授

が「がん」とどう向き合うべきかということを知りやすく説明してください。

日時 2013年 9 月20日

場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

### 【プログラム】

#### 開会挨拶

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、聖学院大学こども心理学科長）

#### 講演 「がん哲学外来」

樋野 興夫（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）

#### 質疑応答

#### 閉会

2013年度 聖学院大学総合研究所主催  
臨床死生学研究講演会

### がん哲学外来

#### 実施結果—アンケート集計結果の概要

日本人の2人に1人は、がんに罹患し、3人に1人はがんによって亡くなると言われています。このような現状の中で、多くのがん患者や家族は悲しみや不安、恐れを抱えて生きています。樋野先生は、このような人々の苦しみを癒やすために「がん哲学外来」を提唱されてきました。今回は、その実践活動の現状と課題についてご教授いただくとともに、その御経験を踏まえて、患者や家族

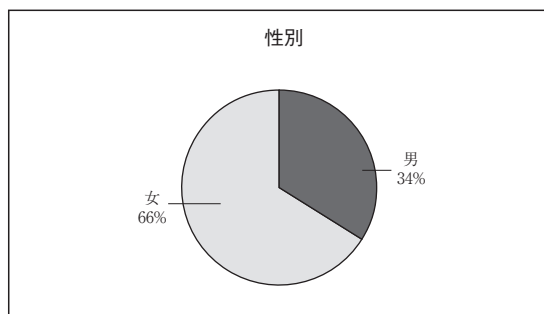
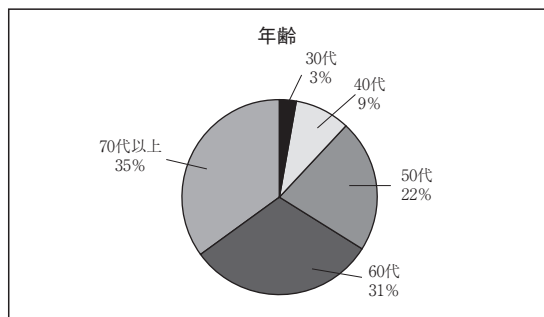


開会挨拶：阿久戸光晴理事長

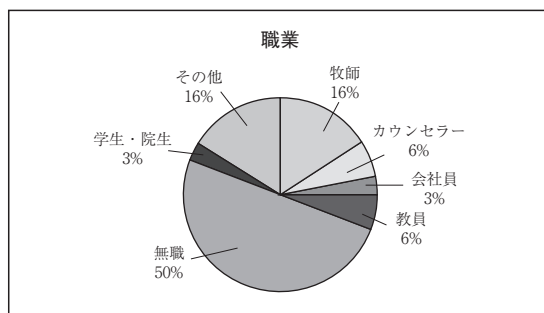
## 【結果の概要】

- ・参加者は61名。内、アンケート回答者は32名。
- ・講演について、「良い」が84%と高い評価だった。
- ・自由意見として、「人に寄り添うことの大切さを学んだ」「大変勉強になった」「質疑応答、とても役に立った」「このような機会を今後ともお願いしたい」など。

### 1. プロフィール

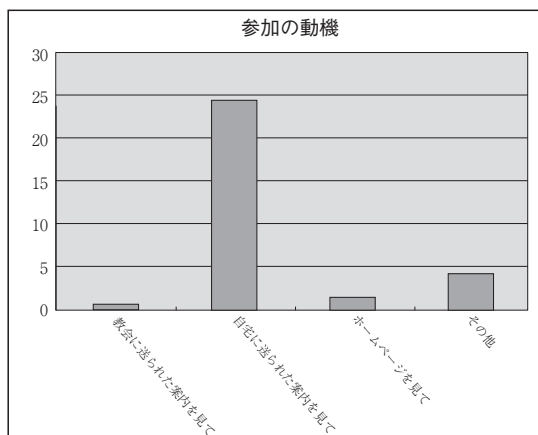


- \* 回答者の年齢は、70代以上が最も多く35%、次に60代31%、50代22%となった。  
性別は、女性66%、男性34%だった。



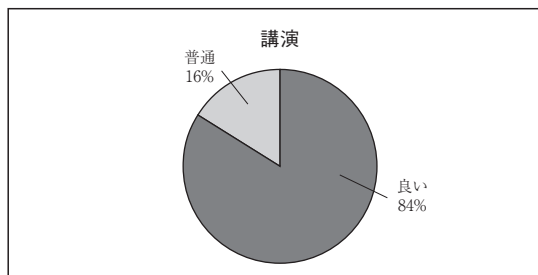
- \* 職業別では、「牧師」16%、「カウンセラー」「教員」共に6%となった。  
「その他」の内容として、「自由業」「主婦」など。

### 2. 参加の動機



- \* 参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「ホームページを見て」となった。  
「その他」の内容は、「家族が以他の講演を聴きいて」「友人の勧め」「テーマにひかれて」など。

### 3. 講演について



- ・今日はとても充実した心豊かな講演会に参加させて頂きまして、とてもうれしく、深い学びになりました。「がん哲学外来」のこと「がんであっても、がんでなくても、本当に人に寄り添うことの大切さ」も学ぶことが出来て、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・樋野先生のご講演は病気の方に対してだけでなく、自分を見つめるためにも良い機会となりました。
- ・声がわれて、聞きにくかった。  
奥が深く楽しんで聞きました。私の生き方も教えていただきました。
- ・軽妙な中に示唆あふれた内容でした。胸うたれました。何よりも、患者さんの心を開き、共に寄り添おうと貫かれている姿勢を学ばせていただきました。

- ・とてもわかりやすく良かった。 $(-) \times (-) = (+)$   
今後の日常生活に活かしていきたいと思った。  
対話を心がけていきます。
- ・「がん哲学外来」ということは、始めに伺いました。しかしその内容を教えて頂き、目が開かれた思いでした。今はがんの方と関わってはおりませんが、配慮をもって関わることの大切さを新たにさせていただきました。よいお話をありがとうございました。
- ・自身、がんを患ったものにとって、病者の希望哲学を共に学ばせていただきます。
- ・to do より to be (存在) が人間性ではとても重要である。というお話し、全くその通りだと感じた。
- ・勉強不足でよくわかりませんでした。休憩後の質疑応答で、何となく理解でき、勇気がわいてきました。ありがとうございました。
- ・聞き取りにくいところがあったのが残念です。  
^ 他人の必要性に共感する。ゆとりと愛情と経験なしには出来ないことだと思いながら伺っていました。人間的に熟成した者になって少しでも人のお役に立てたらと願っています。人とのコミュニケーションにもとても役に立つと思いました。本当にありがとうございました。
- ・自身の問題を考えるひとつのきっかけになったと思います。ありがとうございました。
- ・多岐にわたる取り組みをしてこられたことをわかりやすく、また、ユーモアを交えてお話しくださり、とても胸に染み入りました。スライド資料を少しでも配布していただけると、さらに

勉強が深められて良かったと思います。「場作り」について、大学でも考えられたらと思います。そのための示唆をたくさんいただきました。ありがとうございました。

- ・すばらしいお話しありがとうございました。質疑応答の先生のお答えが胸に響きました。
- ・本当にありがとうございました。ユーモアがあり、聞くほうも楽しくなりました。
- ・とてもいい勉強になりました。ありがとうございました。
- ・よいお話を聞くことができ、感謝しております。
- ・今日はありがとうございました。
- ・「がん哲学外来」についてももう少し整理して話していただきたかった。
- ・時間の関係でしょうか、早口で少々聞き取りにくかったです。

#### 自由意見

- ・また、「がんと共に生きることとスピリチュアルケア」についての講演会やシンポジウムをリクエストしたいです。
- ・私自身はがん宝くじに 4 度当たりました。周りの人にどうしてそんなに元気なの？と言われていますが、泣いて暮らすより、笑って暮らそうと思っています。患者さんにはさりげなく関わろうと思っています。
- ・今日はありがとうございました。先日、訪問看護で告知された方に寄り添いながら、社会性や関係性が遠ざかっていってしまう寂しさを話された方にその信条にとっても心を打たれました。それぞれの場面で私達も学ばされている事に気がつきます。
- ・樋野先生少しおやせになったような気がします。日本全国だけではなく、海外までと忙しい日々を送っていらっしゃるからだと思います。お身体が守られますようお祈りしております。
- ・聖学院のプログラム、また参加したいと思います。
- ・このような機会を今後ともよろしく願いいたします。
- ・大変参考になり、励まされました。
- ・質疑応答、役に立ちとてもよかった。



講演者：樋野興夫教授